

の大
チ拡
イレ
ハコ

AMDA 本格治療へ

医師団の派遣など検討

ハイチのコレラ感染拡大を受け、国際医療ボランティア団体AMDA(本部・岡山市北区)が本格的な治療体制づくりに乗り出す。緊急医療活動から帰国した菅波茂代表が22日に北区で記者会見し、

明らかにした。

菅波代表は「首都ポルトープランスでの爆発的流行の可能性がある」と指摘。隔離治療ができるコレラ治療センター(CTC)への医師団派遣や独自のCTC設置を検討する考えを

示した。さらに、近く現地の医師会と協定を結んでAMDAハイチ支部を設立。長崎大熱帯医学研究所など研究機関との連携や日本政府の資金的支援も探る。

AMDAのハイチへの緊急医療活動は1日に開始。同研究所の山本太郎教授(竹原市出身)や県立広島病院(広島市南区)救命救急センターの朴範子部長も参加。南西部で患者の診察や感染予防に当たり、20日帰国した。

(平川勝憲)